

公共事業事後評価調書

1 事業概要		整理番号	H24 - 1	
事業種別	農業農村整備事業	事業主体	青森県	
事業名	一般農道整備事業	管理主体	弘前市	
箇所名等 (市町村名)	長前地区 (弘前市)	事業方法	国庫補助 交付金	県単独
		財源・負担区分	国50% 県25%	市町村25% その他 %
事業の背景・必要性	本路線は、弘前市長前地域の農地と施設間を結ぶ重要な農道であるが、幅員が狭小な砂利道のため、通作や農産物の輸送に著しく支障をきたしている。このため、本農道を整備し、農産物の輸送に伴う荷傷みの防止や農耕車両の大型化による輸送の合理化、さらには、農耕車両の走行経費及び維持管理費の節減により、本地域農業の収益性の向上と経営の安定を図るものである。			
主な事業内容 (事業量)	道路工 L=2,775.3m、幅員 W=7.0m (車道5.5m + 路肩0.75m × 2)			
想定した事業効果	(金銭価値化が可能な効果) (1) 品質向上効果 ・農産物の損傷(荷傷み)を防止することにより、農産物の品質向上が図られる効果 (2) 走行経費節減効果 ・農産物の生産及び輸送において、農耕車両の走行経費が節減される効果 (3) 維持管理費節減効果 ・農道の維持管理において、その費用が節減される効果 (4) 一般交通等経費節減効果 ・農業以外の一般交通において、その車両の走行経費が節減される効果 (その他の効果) -			
事業の実施経過	(事業着手) 平成16年度	(用地着手) 平成16年度	(工事着手) 平成16年度	(事業完了) 平成19年度
公共事業評価の実施時期	当初計画時(H16年)	再評価時(H 年)	事後評価時(H24年) (最終実績)	
事業期間(事業着手～事業完了)	H16 ~ H19	~	H16 ~ H19	
総事業費	460 百万円	百万円	371 百万円	
計画変更の実施時期	第 回計画変更(年)	第 回計画変更(年)	第 回計画変更(年)	第 回計画変更(年)
事業期間(事業着手～事業完了)	~	~	~	~
総事業費	百万円	百万円	百万円	百万円
特記事項	-			
(事業概要図)				
担当部課室名	農林水産部 農村整備課	電話番号	017 - 734 - 9545	
		E-MAIL	noson @pref.aomori.lg.jp	

2 事業完了後の状況

整理番号 H24 - 1

社会経済情勢等
の変化

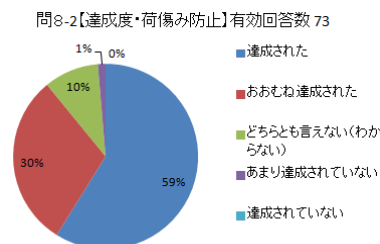
費用対効果分析
の算定基礎と
なった要因の変
化

【総事業費の減】
○県道から本農道(終点部)に進入するための右折レーンの設置を計画していたが、道路管理者との再協議により不要となったため、事業費が減となった。
○本農道整備に当たり埋蔵文化財の調査を計画していたが、調査前の試掘において遺構・遺物が発見されなかったため、調査不要となり事業費が減となった。

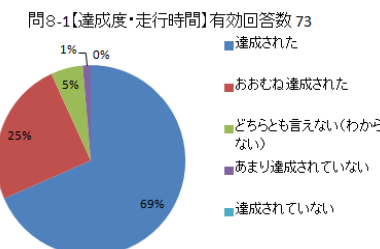
事業効果の発現
状況

(金銭価値化が可能な効果)
本農道の受益地は水田(23%)、りんご園地(73%)、普通畑(4%)であり、整備に伴う効果を以下に記載するが、【必要性】に関するアンケート結果においても、93%の方がこの事業は「必要」「おおむね必要」と回答している。

(1) 品質向上効果 (年総効果額14,855千円)
・本農道沿いのりんご園地等で生産される農産物は、砂利道を舗装道路に整備することにより、輸送時における農産物の損傷(荷傷み)を防止する効果がある。
・【達成度・荷傷み防止】に関するアンケート結果では、89%の方が農産物の荷傷み防止が「達成された」「おおむね達成された」と回答している。



(2) 走行経費節減効果 (年総効果額6,947千円)
・幅員が狭小な砂利道を舗装道路に拡幅整備することにより、通作交通や農産物輸送における農耕車両の走行速度が速くなり、それに伴う燃料などの走行資材経費の節減や労働時間の短縮が図られる。
・【達成度・走行時間】に関するアンケート結果では、94%の方が農産物の生産及び流通に係る走行時間の短縮が「達成された」「おおむね達成された」と回答している。



(3) 維持管理費節減効果 (年総効果額1,061千円)
・砂利道から舗装道路に整備することにより、補修や除雪等の維持管理費(管理者は弘前市)が節減となる。

(4) 一般交通等経費節減効果 (年総効果額6,562千円)
・幅員が狭小な砂利道を舗装道路に拡幅整備することにより、一般交通車両の走行速度が速くなり、それに伴う走行資材経費が節減となる。

(その他の効果)
【その他効果】に関するアンケート結果においては、農業以外についても「効果があった」との回答が42%あり、主な意見は次のとおりである。

- ・目的地まで行く時間が短縮された。
- ・観光にも効果がある。
- ・他の道路につながる点がスムーズになった。

【その他意見】等に関するアンケート結果においては、主な意見は次のとおりである。

- ・りんごに道路のホコリが付かなくなり、本当に良かった。
- ・大型機械の作業効率が良くなった。
- ・大雨の時、雨水が道路を流れて大変だったが、解消された。

(参考(費用便益比))

	当初計画時(H15)	事後評価時(H24)	備考
総費用(C)	483 百万円	390 百万円	
総便益(B)	618 百万円	566 百万円	
費用便益比(B/C)	1.28	1.45	

「土地改良事業における経済効果の測定方法」に基づき、「投資効率方式」により算定している。

(特記事項)

2 事業完了後の状況

整理番号 H24 - 1

事業により整備された施設の管理状況	管理主体である弘前市に確認したところ、供用後から現在まで、通作や交通に支障となる管理上の問題は発生していないと回答があり、適切な管理状況にあると判断される。また、[管理状況]に関するアンケート結果においても、64%の方が管理が「適切」「おおむね適切」と回答している。
事業実施による環境の変化	<p>(「環境影響への配慮」の効果発現状況(特に留意した配慮内容がある場合))</p> <p>通作や収穫への影響を考慮し、受益者の意見を取り入れて工事期間を設定したことにより、りんごへのホコリの付着などの苦情もなく終了した。</p> <p>(その他の環境の変化)</p> <p>[環境変化]に関するアンケート結果では、90%の方が事業実施前と比べて「良くなった」「やや良くなった」と回答しており、ホコリがたたなくなったなどの意見が出されている。</p>

3 まとめ

改善措置の必要性	[改善点]に関するアンケート結果では、「改善点がある」と回答があった中で、「交差点への大きなミラーや標識の設置」や「側溝の拡幅」の意見があったことから、管理主体である弘前市へ情報提供を行い、必要性が確認された場合は改善措置を検討していく。
再度の事後評価の必要性	上記の改善措置について、弘前市の対応を確認するが、「事業効果の発現状況」にあるとおり、全体として、事業目的は達成されているものと判断し、再度の事後評価は必要ないものとする。
今後に向けた留意点	<p>(同種事業の計画・調査の在り方)</p> <p>(事業評価手法の見直し)</p> <p>(同種事業の内容・手法等の在り方)</p> <p>[その他の意見]に関するアンケート結果において、「このような工事は、雪の多い冬期間は避けるべき」との意見があった。整備に当たっては、管農に配慮した工事期間の設定が必要となることから、計画から実施に至る各段階において、住民への説明、工事に対する協力依頼をより一層強化する必要がある。</p>
特記事項	-